第 9 講　水溶液の性質

Step 1

1　次の各問いに答えなさい。

(1)　食塩水における食塩のように，液体に溶けている物質を何というか。

(2)　水溶液の特徴として正しいものをすべて選べ。

ア　無色透明である。

イ　濃さはどこも同じである。

ウ　長時間放置すると溶けた物質はやがて沈殿する。

エ　溶けた物質はろ過しても取り出すことはできない。

(3)　炭酸水は水に何という物質を溶かしてできた水溶液か。

(4)　水 120g に砂糖 20g を溶かしてできた水溶液の，質量パーセント濃度はいくらか。小数第１位まで求めよ。

(5)　100g の水に物質が溶ける限度の質量を何というか。

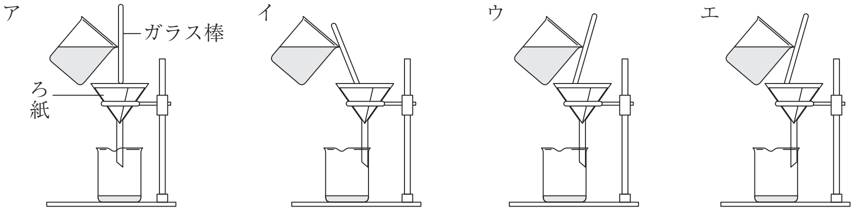
(6)　次の表は，温度と 100g の水にミョウバンが溶ける限度量の関係を表したものである。

温度（℃）	0	20	40	60
100g の水に溶ける限度量（g）	5.7	11.4	23.8	57.4

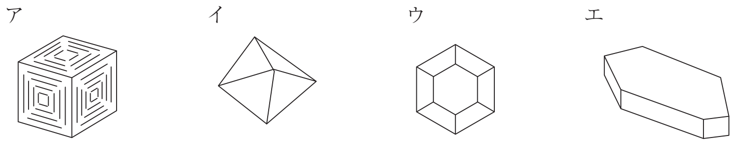
①　20 ℃の水 150g にミョウバンは何 g まで溶けるか。

②　60 ℃の水 100g にミョウバンを 30g 溶かし，20 ℃まで冷やすと何 g の結晶が出てくるか。

(7)　ろ過の方法として正しいものを１つ選べ。



(8)　食塩の結晶の形として正しいものを１つ選べ。



Step 2

2　次の問いに答えなさい。

Tさんは，物質の水へのとけ方について調べるため，砂糖と，物質P，Qを用いて，次の実験を行った。

実験1　ビーカーに，水40gと砂糖10gを入れ，よくかき混ぜたところ，砂糖はすべてとけ無色透明な水溶液になった。その後，ビーカーを密閉し，1週間静かに置いたところ，液（液体）の量は変化せず，固体は出てこなかった。

実験2　図1のように，試験管X，Yを用意し，それぞれに10℃の水10gを入れ，Xには物質Pを5g，Yには物質Qを5g加えた。

［1］ Xの水溶液を10℃に保ち，よく振り混ぜたところ，物質はとけきらずに試験管の底に残った。その後，Xの水溶液を50℃にあたため，よく振り混ぜたところ，物質はすべてとけていた。50℃にあたためたXの水溶液を，ゆっくり冷やしたところ，再び固体が出てきたので，10℃のときに，ろ紙を用いたろ過により固体と水溶液に分けた。

［2］ Yの水溶液を10℃に保ち，よく振り混ぜたところ，物質はとけきらずに試験管の底に残った。その後，Yの水溶液を50℃にあたため，よく振り混ぜたところ，物質はとけきらずに試験管の底に残った。

図2のa，bは，実験2で用いた2種類の物質それぞれの溶解度曲線である。

図1

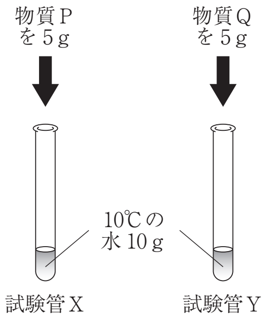
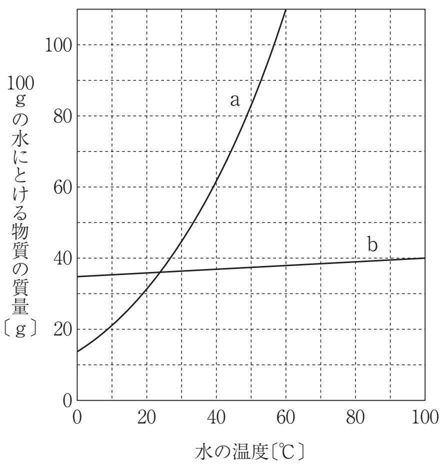


図2



問１　実験１について，次の⑴，⑵に答えなさい。

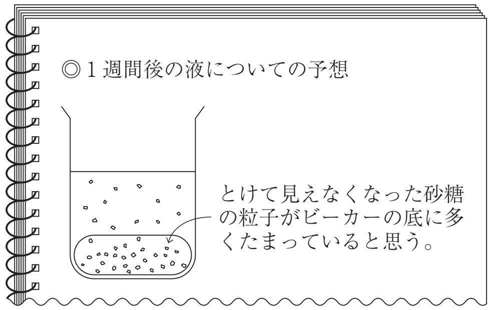
⑴　無色透明な水溶液の，質量パーセント濃度は何％か，書きなさい。

⑵　次の文の，①の｛　　｝に当てはまるものを，ア～ウから１つ選びなさい。また，②の｛　　｝に当てはまるものを，ア，イから選びなさい。

Ｔさんは，１週間後の液について，とけて見えなくなった砂糖の粒子がビーカーの底に多くたまっているのではないかと予想し，図３のように，予想をノートに書いた。

Ｔさんの予想を確かめるために，１週間後の液について底近くの液と，液面近くの液を，それぞれ同じ体積ずつ採取し，液の質量を比較する実験を行うと，実験の結果は，①｛ア　底近くの液の質量の方が大きく　　イ　底近くの液の質量の方が小さく　ウ　どちらの液の質量も同じに｝なる。したがって，Ｔさんの予想は②｛ア　正しい　イ　誤りである｝。

図３



問２　実験２について，次の⑴～⑷に答えなさい。

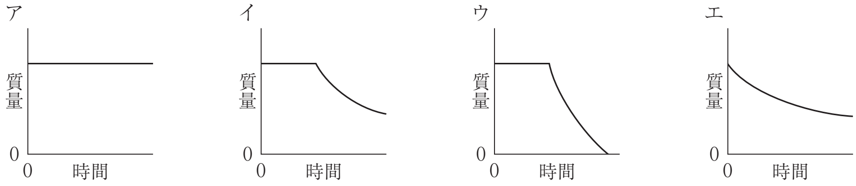
⑴　下線部の操作で，水溶液だけがろ紙を通りぬけるしくみを「ろ紙の穴」という語句を使い，物質の大きさにふれて書きなさい。

⑵　試験管Ｘの水溶液が10℃のときの濃度をM_1，試験管Ｘの水溶液が50℃のときの濃度をM_2，ろ紙を通りぬけた後の水溶液の濃度をM_3としたとき，M_1，M_2，M_3の関係を表したものとして，最も適当なものを，ア～エから選びなさい。ただし，ろ過の操作による水の増減と温度の変化はないものとする。

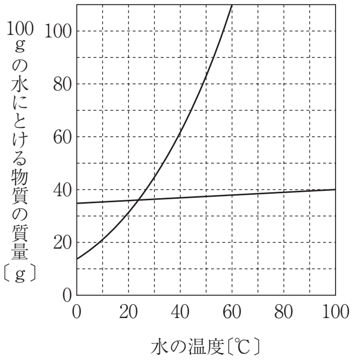
ア　$M_1 < M_2$，$M_1 > M_3$　　イ　$M_1 > M_2$，$M_1 > M_3$　　ウ　$M_1 < M_2$，$M_1 = M_3$

エ　$M_1 > M_2$，$M_1 = M_3$

⑶　試験管Ｘの水溶液を，50℃から10℃になるまで，ゆっくり冷やしたときの，時間と水溶液中にとけている物質Ｐの質量の関係を表したグラフとして，最も適当なものを，ア～エから選びなさい。



⑷　物質Ｐの溶解度曲線は，図２のａとｂのどちらか，書きなさい。また，試験管Ｘから再び固体が出てきたのは，図２の溶解度曲線のどの位置になるか，解答欄の図に●印を１つ書き加えなさい。



【北海道】

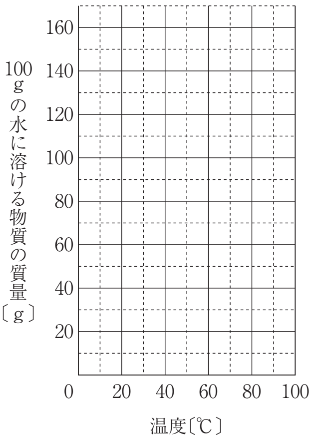
Step　3

3　Ｋさんとしさんは，ホットコーヒーとアイスコーヒーで砂糖の溶けやすさが異なることに関心をもち，温度による物質の溶けやすさの違いについて調べることにした。先生から２種類の物質Ａ，Ｂをもらい，これらを用いて次のような実験を行った。この実験と結果について，あとの各問いに答えなさい。

〔実験〕　物質Ａ，Ｂそれぞれの溶解度を調べるために，温度が20℃，40℃，60℃，80℃の水100gに，それぞれ物質Ａを加えて溶ける質量を記録した。物質Ｂについても同様の実験を行った。これらの結果をまとめたのが表１である。また，表１から図を用いてグラフをかくことにした。

表１　100gの水に溶ける物質の質量〔g〕

	20℃	40℃	60℃	80℃
物質Ａ	32	64	109	169
物質Ｂ	35	36	37	38



溶解度と温度の関係

図

(ア)　〔実験〕より，40℃の水100gに物質Ａを加えてつくった飽和水溶液の温度を80℃まで上げると，さらに何gの物質Ａを溶かすことができると考えられるか。その値を書きなさい。なお，水溶液の温度を上げても水の質量は変化しないものとする。

(イ)　〔実験〕より，物質Ａの飽和水溶液と物質Ｂの飽和水溶液の質量パーセント濃度が同じ値になる温度はおよそ何℃であると考えられるか。最も近い値を次の1〜4の中から一つ選び，その番号を書きなさい。

1．15℃　　2．25℃　　3．35℃　　4．45℃

(ウ)　次は，〔実験〕をもとに物質Ａと物質Ｂの混合物について考えている先生とＫさんとＬさんの会話である。

先　生 「物質Ａと物質Ｂは温度による溶け方が異なりますね。この特徴を利用して，表２のような混合物から物質Ａや物質Ｂを１種類ずつ取り出す方法を考えてみましょう。物質Ａ，Ｂは，混合したまま同じ水に溶かしても，それぞれの溶解度は変化しないと考えます。また，水溶液の温度を変化させても，水の質量は変化しないと考えます。」

表２

	物質Ａ	物質Ｂ
混合物Ⅰ	100g	30g
混合物Ⅱ	100g	38g
混合物Ⅲ	32g	35g

Ｋさん 「混合物Ⅰを，100g の水に入れて温度を上げ，すべて溶かした後にゆっくり 20 ℃まで冷却すれば，物質Ａの結晶のみを取り出せると思います。」

Ｌさん 「なぜ物質Ｂは出てこないといえるのですか。」

Ｋさん 「20 ℃に冷却しても，（　Ｘ　）ため，物質Ｂはすべて溶けたままであると考えられるからです。」

先　生 「そうですね。では，混合物Ⅱの場合はどうでしょう。」

Ｌさん 「先ほどのように，混合物Ⅱを 100g の水に入れて温度を上げ，すべて溶かした後にゆっくり 20 ℃まで冷却すると結晶が出てきますが，この結晶は物質Ａの結晶と物質Ｂの結晶が混ざったものと考えられます。」

Ｋさん 「この結晶を，ろ過して取り出し乾かした後，100g の水に入れて温度を上げ，すべて溶かして再び 20 ℃まで冷却すれば，物質Ａのみの結晶が（　Ｙ　）g 得られるはずですよ。」

先　生 「そうですね。では，混合物Ⅲから物質Ｂの結晶のみを得る方法はありませんか。」

Ｌさん 「混合物Ⅲを 100g の水に入れて温度を上げ，すべて溶かした後，（　Ｚ　）ことによって物質Ｂの結晶のみを取り出せると思います。」

先　生 「そうですね。では，混合物Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを使って実験してみましょう。」

(i)　文中の（　Ｘ　）に，物質Ｂがすべて溶けたままであると考えられる理由を，前後の語句につながるように **20 字以内**で書きなさい。

(ii)　文中の（　Ｙ　）に適する値を書きなさい。

(iii)　文中の（　Ｚ　）に最も適するものを次の１～４の中から一つ選び，その番号を書きなさい。

１．20 ℃以下に冷却する
２．20 ℃に保ちながら水を 20g 蒸発させる
３．40 ℃に保ちながら水を 60g 蒸発させる
４．60 ℃に保ちながら水を 50g 蒸発させる

【神奈川県】

〈 ***Note*** 〉

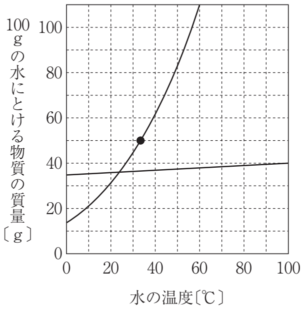
第 9 講 水溶液の性質

Step 1

1 (1) 溶質 (2) イ・エ (3) 二酸化炭素 (4) 14.3（%） (5) 溶解度
(6) ① 17.1（g） ② 18.6（g） (7) ウ (8) ア

Step 2

2 問 1. (1) 20（%） (2) ① ウ ② イ
問 2. (1) ろ紙の穴よりも小さい物質だけが，ろ紙を通りぬける。（同意可） (2) ウ (3) イ (4)（記号）a （図）（右図）



Step 3

3 (ア) 105（g） (イ) 2 (ウ) (i) 物質 B の質量の値は溶解度より小さい（17 字）（同意可）
(ii) 36 (iii) 4